

第7回小牧市東部まちづくり審議会 議事録

1 開催日時

令和4年10月14日（金）10時00分から正午まで

2 開催場所

小牧市役所 東庁舎5階 大会議室

3 出席委員（名簿順）

増田 昇（会長）	大阪府立大学名誉教授
大塚 俊幸（職務代理）	中部大学教授
古池 嘉和	名古屋学院大学教授
和田 貴充	空き家活用株式会社代表取締役 CEO
蛭原 義裕	一般社団法人小牧青年会議所
田中 秀治	社会福祉法人小牧市社会福祉協議会
坪井 和巳	小牧商工会議所
鈴木 美穂	小牧市小中学校 PTA 連絡協議会桃ヶ丘小学校母親代表
落合 勝之	陶小学校区地域協議会
深堀 修	篠岡学区地域協議会
中川 豊	光ヶ丘小学校区地域協議会
小柳 松夫	桃ヶ丘小学校区地域協議会
村上 富士男	大城小学校区地域協議会
原 正行	公募委員
藤村 歩	公募委員
三木 孝行	公募委員

4 欠席委員

横山 幸司	滋賀大学教授
稲垣 武磨	尾張中央農業協同組合
秦野 利基	こまき市民活動ネットワーク
渡邊 比呂子	公募委員

5 出席オブザーバー

愛知県営住宅管理室
愛知県交通対策課
独立行政法人都市再生機構
一般財団法人桃花台センター

6 事務局

鵜飼 達市 都市政策部長

堀場 武	都市政策部次長
平野 淳也	都市政策部東部まちづくり推進室長
加藤 宗礼	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係長
横井 久志	都市政策部東部まちづくり推進室 専門員
林 亮佑	都市政策部東部まちづくり推進室 主査

7 傍聴人数 4名

8 会議内容

1 開会

あいさつ

2 報告事項

(1) 令和4年度上半期の取組状況について

- ・東部まちづくりプラットフォーム
- ・講演会 東部振興構想ってなに？ 私たちにできること
- ・東部地域でつながり、やってみようプロジェクト

3 議事

(1) 令和4年度下半期の取組について

(2) その他

4 閉会

■議事録

【事務局】

時間になりましたので、ただいまから開催させていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席賜り誠にありがとうございます。

ただいまより、第7回小牧市東部まちづくり審議会を開催させていただきます。

私は、都市政策部次長の堀場です。どうぞよろしく願いいたします。

初めに、委員の交代がありましたのでご紹介をさせていただきます。市区域内の公共的団体で小牧市小中学校PTA連絡協議会桃ヶ丘小学校母親代表より選出されておりました柴田良奈委員におかれましては、年度の母親代表の交代により、新たに鈴木美穂様にご就任いただきましたのでよろしく願いいたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。事前に資料は配付しておりますが、次第に掲げている資料の1から6、参考資料として2点ございます。また、本日、机の上に追加資料1部を配付させていただきましたのでご確認をよろしく願いいたします。不足等がありましたら申出を願いたいのですが、特によろしいでしょうか。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず、初めに増田会長よりご挨拶いただきます。増田会長、よろしく願いします。

【増田会長】

皆様、お久しぶりです。おはようございます。だいぶコロナも落ち着いて、いよいよアフターコロナ

なり、ポストコロナの動きに展開していくのかなというようなことを思っておりますけれども、社会情勢は非常に不安定な状態で心配もたくさんありますが、今までの審議会は、どちらかという行動指針としての構想づくりという形で昨年度までやってきました。今年度からは、その進捗管理と同時に、いろいろなプロジェクトが動いていく中で助言をしたり、サポートしたり、あるいはそれに対して我々が伴走しながら、どのような展開が図れるかというような会議体になろうかと思っておりますので、今年度からもよろしくお願ひしたいと思ひます。

【事務局】

ありがとうございました。

ここで、ご報告申し上げます。本日の出席委員数は16名でございます。したがいまして、小牧市東部まちづくり審議会条例第6条第2項の規定により、本会議は成立いたしております。

それでは、以降につきましては、小牧市東部まちづくり審議会条例第5条第2項に基づき、会長が会議を総理することとなっておりますので、増田会長にお願いしたいと思ひます。それでは会長、よろしくお願ひします。

【増田会長】

それでは、12時ぐらいを目途に意見交換をしまひたいと思ひます。

次第にございますように、本日は報告が1件、令和4年度上半期の取組状況について報告いただいた後、意見交換を行います。

それと3番目に議事がございます、令和4年度下半期の取組について意見交換をするという段取りになっておりますのでよろしくお願ひします。

それでは、報告案件ですが、令和4年度上半期の取組状況について、事務局からご報告をいただいて、順次、意見交換をしまひたいと思ひますのでよろしくお願ひします。

これは1個ずつやっていったらいいですね。それとも3つ連続して報告されますか。どちらがいいですか。

【事務局】

連続して報告させていただこうと思っております。

【増田会長】

分かりました。それではプラットフォームから、やってみようプロジェクトまで一括してご報告いただいて、意見交換をしたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

【事務局】

それでは、令和4年度上半期の取組状況についてご説明をさせていただきます。

委員の皆様にもご審議をいただき、東部振興構想を本年3月に策定いたしました、その直後の取組となりますので、まずは構想の周知及び啓発、そして、構想が掲げる東部地域の将来像の実現に向けて、まちづくりに関わる様々な主体がつながり、次の行動の起点の場となるプラットフォームの構築に注力して取り組んでまいりました。

これらの取組を具体化したものが次第にあります「東部まちづくりプラットフォーム」、「講演会「東

部振興構想ってなに？私たちにできること」、「東部地域でつながり、やってみようプロジェクト」となりますので、この3点を中心に説明をさせていただきます。

では、お手元の資料のうち、資料2をご覧ください。

最初に、東部まちづくりプラットフォームについてです。

多くの方々の参加を想定するプラットフォームにおいては、最低限のルールが必要となりますので、立ち上げに当たり、東部まちづくりプラットフォーム規約を定めております。この規約では、第1条に、プラットフォームの目的として、「東部振興構想に基づき、市民、事業者、各種団体など様々なまちづくりの主体となる人たちをつなげる場を構築し、市民等によるまちづくり活動が促進されることで東部地域のまちづくりを推進すること」を掲げています。

次に、第3条におきまして、プラットフォームは登録制とすることを定めています。これは、参加者を限定的に制限しようとするものではなく、暴力団などを排除するために、必要最低限の規制をかけたものです。

その下の第4条では、プラットフォームの目的を達成するために推進する事柄を掲げています。「東部地域の活性化に関する情報の提供、提案及び相談」、「オンラインなどを活用した会員同士が交流できる場の構築」、「公民連携・事業者連携促進やまちづくりの人材育成のためのセミナー及びワークショップの開催」、「その他目的を達成するために必要な取組」とありますが、このうち第2号の「オンラインを活用した交流できる場の構築」につきましては、後ほど、資料3をご覧くださいながら説明をさせていただきます。

規約の最後、第6条第2項には、「この規約は、第1条に定める目的を達成した場合、又はその役割を終えたと認められる場合もしくは他にプラットフォームの設置及び運営を譲渡する場合、その効力を失う」とあります。これは、東部振興構想でも、中間支援組織の活用・育成に触れていますが、プラットフォームの当初の立ち上げは、市が行ったものの、必ずしもそれがゴールではなくて、プラットフォームやまちづくり活動を続けていく中で、プラットフォームの運営を担う存在が育っていくことを期待したものです。

続きまして、資料3をご覧ください。

こちらは東部まちづくりプラットフォームの状況でございます。先ほど、説明しました規約の制定直後になりますが、本年6月5日に「東部まちづくりプラットフォーム」を開設いたしました。ご覧いただいている資料に、登録者募集のチラシを載せていますが、ここにあるQRコード、あるいはアドレスにアクセスしていただきますと、プラットフォームの登録フォームにつながります。市のホームページにも同様にアドレスのリンクを掲載していますが、そちらのフォームに、氏名等必要事項を入力いただき、登録する形としており、9月20日現在の登録者数は64名となっています。

次に、資料の下段になりますが、登録者の内訳です。個人、事業所別では、個人が58名、事業者が6事業所となっています。個人58名の内訳を見ますと、性別では未回答が1名ありますが、男性が41名、女性が16名。居住地につきましては、既存集落が10名、桃花台ニュータウンが36名、市内他地域で7名、市外の方が5名。年代別では、資料の表のとおりですが、49歳以下が22名、50歳以上が36名となっています。

6事業所の所在地を見ますと、既存集落が2事業所、桃花台ニュータウンが1事業所、市内他地域が2事業所、市外が1事業所となっています。

続きまして、資料3の裏面ではありますが、プラットフォームのこれまでの展開についてです。

先ほど説明しました規約の中にもありますが、今回のプラットフォームの運用に当たっては、参加の

しやすさ、つながりやすさを重視し、かつ、時間や場所を気にせずコミュニケーションを図る手段といたしまして、オンラインの活用の検討をいたしました。具体的には、広く一般的に利用され、なじみやすいと思われるLINEの機能として設定されている、オープンチャットという仕組みを採用することといたしました。実際のLINEの画面を資料に掲載しておりますが、こちらには、プラットフォームの登録をされた方にアカウントのお知らせをお送りし、希望される場合は改めてオープンチャットへの参加申請をしていただく流れとなっています。

ご覧いただいている資料に、このオープンチャットをどのように活用しているかを載せております。1つ目は、東部地域でつながり、やってみようプロジェクトでの活用です。プロジェクトについては、この後、説明させていただきますが、まちづくりを実践してみようという取組になりますので、ワークショップの時間内だけでは詰め切れないことも多く、それを補う場として活用されています。

2つ目は、登録者に対する情報の提供、共有という意味で、市からイベントの告知や連絡ツールとして活用しています。

3つ目は、登録者の声を聞くためのツールとして、アンケートや意見募集に活用し、その結果についても、適宜、共有するようにしています。

このオープンチャットにつきましては、もう少し詳しい説明を参考資料2としてお配りしていますので、ご参照いただければと思います。

続きまして、資料の4をご覧ください。

まちづくりの基盤となるプラットフォームを立ち上げるとともに、東部振興構想を知ってもらい、さらには、まちづくりへの参加の輪を広げるための意識醸成を図る目的で、講演会「東部振興構想ってなに？ 私たちにできること」を開催いたしました。

この講演会は、市民活動団体である「桃花台を考える会」の発案で実現したもので、市との協働事業として実施させていただきました。開催日は、本年6月12日、日曜日です。東部市民センター講堂を会場に203名の方にお集まりいただきました。

講演は2部制といたしまして、第1部では、小牧市の山下市長より東部振興構想策定の趣旨、地域の方々へのメッセージなどをお伝えしました。

第2部では、当審議会委員でもある中部大学の犬塚教授からご講演いただき、この東部地域に期待することや先進事例などのお話をいただきました。

ご来場された方からは、依然として、「市は何をしてくれるのか」、「まちづくりは市が行うものだろう」といったお声も聞こえましたが、資料裏面のアンケート結果を見てもうかがえるように、まちの行く末について、「自分ごと」として捉えようとしている住民の方々もいらっしゃいました。こうした輪が、少しずつでも広がることを期待いたしまして、今後も構想の周知・啓発に取り組んでいきたいと考えております。

なお、講演の様子につきましては、市公式YouTubeチャンネルにてご覧いただけるようにしています。

次に、資料5をお願いいたします。

こちらは、「東部地域でつながり、やってみようプロジェクト」についてです。このプロジェクトは、当審議会でもご意見を頂戴し、東部振興構想と両輪で動かしていくとしたアクションプランにおきまして、先導的に実施していくリーディングプロジェクトとして位置づけたものを具体化したものとなっています。

内容としては、「まちづくりをやってみよう」というテーマのワークショップを開催いたしまして、そこに参加した方々が、その場でつながり、考え、まちづくり活動を「トライアル」として実践してみ

るプロセスを体験するというものです。

資料に沿って順に説明させていただきます。

左上、概要の部分ですが、まず、6月から7月にかけて計3回のワークショップを開催し、この中で、トライアルとして実施する活動について、グループに分かれて検討しました。このワークショップの参加者募集に当たりましては、東部振興構想に掲げる3つのビジョンを活動のテーマといたしました。

3つのビジョンに沿ったテーマごとに、計5つの活動アイデアが生まれ、今まさに、実践の真っ最中という段階となっております。5つの活動アイデアの中身は、この後、ご紹介いたしますが、全体の流れとしては、活動を次のステップへ活かすため、実施報告会を年明けの2月頃に開催する予定としています。では、資料の下段をご覧ください。

ここには、ワークショップにおきまして、各グループでディスカッションされた取組内容について記載しています。

一番左の欄では、構想のビジョン1、「多様な人が暮らし続けられるまち」にひもづけて、「こどもを地域で育てよう」というテーマに対し、「こどもマルシェ」を開催することとなりました。活動の概要ですが、子供たちの地域への愛着を育むことを目的に、子供が主役で、販売員など様々な経験ができる体験型マルシェを12月4日に開催予定です。このグループには、地元の児童館関係者の方も参加されており、アドバイス等も受けながら取組を進めています。

その右隣ですが、構想のビジョン2、「多様な職業が共存し、持続できるまち」にひもづいた、「地域の特産物を守ろう」というテーマに対し、3つの活動アイデアが出されました。

まず、「あおぞら市場 in 緑道～農産物地域内循環プロジェクト～」です。これは、地域の農産物を販売する「あおぞら市」を11月27日に緑道で開催し、農家や地域住民のふれあい・交流につなげようとするものです。JAや地元農家の規格外を含む農産物や家庭菜園などで採れました野菜を販売し、農家などの生きがいつくりにもつなげたいという考えです。この活動に当たっては、地元の尾張中央農協の関係者であります、当審議会の稲垣委員にもご協力をいただき、協議しながら進めています。

次に、「特産物を広くPRしよう」です。活動の概要は、地域の特産物であるブドウを広く知ってもらうため、ブドウの特徴、お勧めの食べ方・保存方法、生産者のこだわり、生産工程のほか、ブドウ農家の現状などを伝えるフリーペーパーやパンフレットを作成し、地域へ配布するというものです。

このグループには、ブドウ農家の方も参加しており、生産者とのつながりの中から見えてきた現実を踏まえた取組となっております。

続きまして右隣は、「特産物を使って商品開発しよう」です。これは、地域の特産物である桃を活用し、年中味わえる桃メニューのレシピを開発して、「しのおかの桃」の知名度アップを図ろうとするものです。今年度は、桃メニューのアイデアをもとにレシピづくりと試作品づくり、試食会の開催などを行う予定です。また、試作品のレシピを公開し、市民や市内店舗へ紹介することも検討しています。

このグループでは、桃を使った商品への夢が膨らみ、食品メーカーに商品化できないかを打診したアイデアもありましたが、実際には難しかったようです。しかしながら、グループのメンバーの夢は膨らみ続けているようで、今後が楽しみな活動の1つとなっております。

この「地域の特産物を守ろう」のテーマを議論する中で、東部を代表する特産品である「桃」を生産する農家の参加も得たいという意見もありましたが、桃農家の繁忙期とワークショップの開催時期が重なり、桃農家からは、「とても参加できない」という声もありました。このような声も反省点として踏まえつつ、来年度以降の開催時期につきまして、検討する必要があるのではないかと考えております。

そして、一番右の欄は、ビジョン3、「訪れたいくなる、住みたいくなる魅力のあるまち」にひもづけま

した「東部地域のイメージアップ大作戦」です。

活動の概要ですが、マイホーム購入など居住地を選択するという、人生の転換期を前にした若者に、東部地域の魅力を認知してもらい、居住地選択の局面で、有力な候補地として東部地域を想起してもらえるよう、魅力発信の動画を製作しようとするものです。

具体的には、ドローン等で東部地域の「素敵なところ」を撮影し、SNSで発信するとともに、それらの視聴数や視聴地域の検証により、今後の取組に活かしていこうとするものです。

ここで、作成した動画を見ていただきたいと思いますので、前のスクリーンをご覧くださいと思います。

(不具合で動画が映らず) つながらないようですので、後ほど改めて観ていただきたいと思います。説明を先にさせていただきます。申し訳ございません。

こちらは動画の第1弾ということで、小牧ワイナリー編は、既に市公式YouTubeチャンネルにて公開しています。

この動画の製作に当たりまして、撮影・編集等を市の広報広聴課と連携して行っております。なお、事前にお配りしていませんでしたが、本日、各委員の席に置かせていただきました追加資料をご覧くださいますと、各グループのメンバー構成など、それぞれの特徴を列記していますので、より活動の様子をイメージしていただけるのではないかと思います。

続きまして、資料の裏面をご覧ください。

こちらには、先ほどご紹介しました各グループの活動内容につきまして、東部振興構想との関係性をお示ししており、活動ごとに関係する取組方針、取組の方向を記載しています。ご覧いただき、お気づきのとおり、それぞれの活動は様々な分野に影響を与えますので、1つの取組が、幾つものビジョンに関係することがお分かりいただけるのではないかと考えております。

最後に、参考資料1をご覧ください。

こちらは、「まずはやってみようプロジェクト」を展開するのに当たり、まちづくり活動を始める後押しをするため創設した支援制度の案内です。この制度は、2本立てとなっており、1つは、参考資料の1枚目にありますように、活動に係る経費を支援する補助金制度。もう一つは、資料の2枚目になりますが、当該活動が東部振興構想に掲げるまちの将来像実現に寄与する取組であることを認定することにより、市ホームページなど、市の媒体も活用したPRを行うことなどを支援する制度です。この認定制度については、当審議会にて頂戴いたしましたご意見を参考に創設をさせていただきました。

以上で令和4年度上半期の取組状況についての報告となります。よろしくお願いいたします。

【増田会長】

ありがとうございました。ただいま令和4年度上半期の取組状況についてご報告いただきました。かなり着実に一步一步踏み出されているという状況が分かったと思いますけれども、何かこれに関して、ご意見、もしくはご質問等がございますでしょうか。最初にプラットフォームについてということで、何か規約、あるいはプラットフォームの形成の仕方についてご意見がございますでしょうか。

趣旨としては、先ほどもご説明いただきましたように、今は主務が東部まちづくり推進室になっていますけれども、できれば地域に事務局的な機能をおろしていきたいというようなことだと思います。ある意味、地域で担っていただける方々が出てくると、かなり自由に動けるようになっていくということかと思いますが、余り焦らずに引き渡しができるようにというか、広がっていったらいいということですが。

ほかは何かございますか。プラットフォームはよろしいですか。和田委員、どうぞ。

【和田委員】

いろいろ事業が実現していっているのはすばらしいなと思います。プラットフォームですけれども、今人数が大体 60 人ぐらいだと思うのですが、K P I システムみたいに、いつまでに何人くらい登録され、事業者にどういう業種が登録されてとか、そういった構想はあたりするのかというのが1つ。もう一つは、運営の母体が、今は東部まちづくり推進室がやっていらっしゃると思うのですが、実際にプラットフォームで人を増やしていき、継続的に運営していくとなると、民間の力を借りながら一緒にやっていったほうがいいのではないかと思います。臨機応変に対応していくことなどを考えると職員だけではなかなか難しい部分があるのではないかと思います。せっかくできた東部まちづくりプラットフォームはすごく大事だと感じますので、推進していくための政策というか施策みたいなものがあるなら教えていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

【増田会長】

いかがでしょう、2点。1つは目標指標があるかどうかという話と、推進体制を少し民活なりアウトソーシングするようなことも考えられているかという2点ですけれども、いかがでしょうか。

【事務局】

最初に指標設定ですが、まだ始めたばかりということですので、よりたくさんの方に啓発しながら、多くの方に登録を促しているところです。現段階では、先を見据えた指標設定などの推進計画が立てられていない状況でございます。

それから、2つ目のプラットフォームの将来的なということで、先ほど説明の中でも地域の方ということになっておりますが、いろいろなご意見をいただきながら、外部の民間の力をお借りしながらということになるかと思いますが、それも含めて今後検討していきたいと考えております。

【増田会長】

よろしいでしょうか。

【和田委員】

ありがとうございます。やはり指標設定とか重要かと思います。どういう人に来てほしいという、どういうふうになってほしいというイメージはあると思うので、じゃあ誰に来てほしいのかというのは、一回検討した方がいいかなと。スタートしたところなのでイメージだけでもいいと思うのですね。これが今年度 100 になったら成功なのか、200 になったら成功なのか、500 になったら成功なのかということによって施策が変わってくると思いますので、このあたりも地元の方と一緒にご検討いただいたほうがいいのではないかと思います。

民間に任せていくということを目標値として、3年後なのか、5年後なのかというのもあると思います。別に急がなくてもいいと思うのですが、渡すのであれば、最初から民間で運営しやすくしてあげるということが必要だと思いますので、その起点になるキーマンを探し続けないと、多分、いきなり渡しますでは絶対無理なので、できれば並走していくというパターンができれば、こういうプラットフォームは成功するのではないかと思います。

【増田会長】

ありがとうございます。多分伴走しながらキーマンを発掘して、伴走しながら徐々に引き渡していくという仕組みですね。もう一つは、地域にお渡しするだけではなくて、少しアウトソーシングするような形で、まちづくり会社的な形でのアドバイスをもらっていくようなことも考える必要性があるのではないか。

あともう一つは、書き方になると思いますが、事業所と個人となっているのですが、事業所の中には各種団体というか、いろいろなプロジェクトチームとして登録できるという仕組みはあるのでしょうか。事業所というと非常に固いイメージがあるのですけれども、今プロジェクトされているみたいな形で、チームとしてプラットフォームに入りたいというようなことも受け入れるような状態になっているかどうかということなののですけれども、それはいかがでしょう。

【事務局】

先の説明での資料では、個人登録、事業所登録という分け方で資料を作成していますが、先ほど発言のありましたプロジェクトチームなどの団体での登録ももちろん可能となっています。広くいろいろな方に登録していただきたいと考えております。

【増田会長】

分かりました。ありがとうございます。
いかがでしょう。プラットフォームに関連してはよろしいでしょうか。落合委員どうぞ。

【落合委員】

いろいろな活動をする、会場費など活動するうえで課題が出てきますので、6条に別に市長が定めるという決めがありますので問題ないと思いますけれども、この活動については、会場使用料を減免する対象にするというのではないかと思います。会場が優先的に取れないなど、いろいろな活動に会場面で縛られることがあるので、そういう面でこの活動を助けていく。そういうことを初めから決めておくとか、活動する側が迷わなくてもいいようにしておいたほうが良いような気がしますので。一応参考に。

【増田会長】

思いますに、最初から全て会場が無料でない活動できない、そうでないと開催できないというよりも、むしろ各プロジェクトのときにお話ししようと思ったのですけれども、テーマでこどもマルシェからイメージアップ大作戦まで、金銭面でも自走できるプロジェクトとして最初から考えておくということが非常に重要で、補助金なり、支援がないと運営できませんという話ではなくて、最初から極力自走できるというような形でプロジェクトに取り組むということが大事だと思うのです。

例えば、10月の末も公園で占用料を払ってイベントをするのですけれども、参加費は1グループ500円、それだけでは足りない、販売するグループに対しては売上げの10%を参加費プラスで支払う。そういうことによって、行政から支援のないイベントが自走できるようにというようなやり方をやっているのです。そういうのも少し考えながら展開していくということも大事だと思うのです。行政のほうでは会場だとかそういうことに対しては支援いただいて、特に大変なのは手続の簡略化というのが重要で、煩雑な手続というのは一番ネックになっているので、その辺の手続の分かりやすさとか、ワンストップ化とか、簡略化みたいなものは落合委員がおっしゃっていただいたように、非常に行政としてはそのあ

たりを注意して展開していただきたいというようなことを思います。少しコメントですけれども、よろしいでしょうかね。

ほかはいかがでしょう。中川委員どうぞ。

【中川委員】

登録に関してなのですが、個人登録 58 名、事業所登録 6 事業所とあります。事業所という意味合いですが、企業と捉えた場合、大から中小いろいろ様々ありますが、ここに上がっております 6 事業所が、どの程度のレベルかというのは分かりません。もちろん数だけの問題ではないと思いますが、やはり小牧市内の中には超一流大型企業がございます。その辺りの参加というのが、今後特に必要になってくるのではないかという気がいたします。

ですから、単に応募を待っているのではなく、こちらのほうから積極的にここの企業にはぜひ参加いただきたいというところはターゲットを絞って、個々のアプローチも必要になってくるのではないかという気がいたします。

【増田会長】

はい、分かりました。非常に大事な話で、営業に歩くということが非常に大事だと思いますので、ご指摘のとおり待ち受けではなくて、先ほど和田委員からも目標設定をしてというようなことがありましたけれども、ある一定、戦略を立てて発掘していくというようなことが、ご指摘のとおり大事だと思います。ありがとうございます。

事務局のほうは 6 事業所の内容については、何かございますか。また、小牧市あるいは東部地域に立地されている企業へ営業に行くような計画みたいなものはいかがでしょうか。

【事務局】

まず、6 事業所ですが、既存集落のところで 2 つの登録がございます。こちらは農業関係の方ですとか、NPO 法人の方が登録されています。また、桃花台ニュータウンの中ですと、団体の方からの登録になっております。あとは、市内のエネルギー関係の事業所ですとか、その他事業所がもう一つ、あと市外のところが 1 つというような状況となっております。

また、事業所への営業訪問については、事務局としても必要だと考えておりますが、現状なかなか手をつけられていないという状況です。今後そういったことも含めて進めていきたいと考えております。

【増田会長】

特に工業団地が同じ東部地域の中にあって、そこに立地されている企業への営業活動も重要になってこようかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

【事務局】

先ほどお話しのお営業活動の今後ということでは、商工会議所などにもご協力いただきまして、こちらのご紹介とか営業活動等を進めていければと考えています。

【増田会長】

ありがとうございます。よろしいでしょうか、中川委員。

【中川委員】

はい。

【増田会長】

小柳委員も手を挙げていただいたので、小柳委員どうぞ。

【小柳委員】

私はあおぞら市場をやろうとしているんですが、11月27日に開催することで頭がいっぱいです。これを成功させるということが、一つの成果になるのではないかと考えています。

ですから、まずはこれを実際に開催ができて、しかも評価できるような形で終わりたいなど。そういうためにはどうするかということは今考えて準備しております。

【増田会長】

そうですね。やはり、ここに書かれているように地産地消を推奨するという、東部地域全体の中で、農村部もニュータウンもあって展開しているという意味で、その強みをこういう形で活かしていくと。これができたら、行く行くは買い物難民の解消のために定期開催できるとか、その頻度が高まっていくというようになるといいですし、私が今やっている泉北ニュータウンの周りには、新規就農をして小規模だけど普通の農家にない新しい取組をされている就農者の人が、いわゆる企業流通みたいなものはなかなかしんどいので、マルシェとか緑道のイベントを販売の1つのチャンネルとして利用するみたいなことを考えていますので、そういうことにもつながっていくと面白いと思うのです。

小柳委員よろしいでしょうか。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。古池委員、どうぞ。

【古池委員】

プラットフォームのコンテンツに関して、今まで行政情報とか、いろいろやってこられたということなんですが、あちこちでやっておられたことを少しご紹介したいと思います。これについては、どなたがやるかという、先ほどからの議論ではあるのですが、例えば、定点観測で移りゆく風景をずっと流しただけ、要するに東部の良さのうち、何をシェアするかという、シェアすべき価値は何だということなのですが、恐らく東部の暮らしぶりとか、自然とか四季折々でもいいですから、そういうものをうまく流しつつ、価値のシェアを広げていく。プラットフォームというところのコンテンツに、これから誰がやるかというのは出てくるのですが、そういうところを少し広げていくと、プラットフォームの可能性が広がっていくだろうと。当面行政情報で大丈夫なんですけれども、少しそのあたりを、何を拾って誰が出すかというあたりを議論されると、もっとぐっと広がっていく可能性が切り開けていくと思うので、ご検討していただけると。

以上です。

【増田会長】

そういう面では、プロジェクトの中で東部地域のイメージアップ大作戦、ドローンを飛ばされたり、ワイナリーを紹介されたりという。しかもこれは大学生も含め、若い人も参加して取り組んでくれてい

ると。20代から70歳代までの幅広い形での9名が、そういう形で展開されていて、市内在住者、あるいは市外の在住者が4名も入っていると。このあたりが1つは非常に面白い動きとして展開していくといいですね。このチームをリーディングしていただいているのは、大塚先生のところの学生さんなんですかね。

【大塚委員】

いや、リーディングはしていませんね。走り回ってはいますけれども。中心的にやっていただいている方も比較的若い方で、そういう方のもと学生も自分たちでできるとしたら、どんなことができるかということで、いろいろ悪戦苦闘しながらやっていますね。

【増田会長】

そうですね。多分別の資料で書いていただいているように、市の広報広聴課と連携という形で、そのあたりも行政のできるサポートを、行政はかなり目配せして展開していただけると、より広がりが大きくなるだろうと思います。

それと行政というのは、こういうことを言うとおかしいですが、いまだに一般市民に対する信頼性が非常に高いので、ちゃんとサポートすると、全く違うんですね。個人的な情報発信だけではなくて。だから行政が持つ信頼性にも裏づけされて、うまく展開していけるようになると思います。ご協力、ご支援いただければと思います。

ほかはいかがでしょうか。和田委員、どうぞ。

【和田委員】

ありがとうございます。この地域のイメージアップのところで、学生さんとか入っていただいて、すごくチャンスだなと思っているのですが、このプロジェクトだけが、ほかの全部のプロジェクトとも連動できると思うので、例えば、取材をするということだったりとか、取材を発信してもらおう。やり方の話ですが、このチームに、ほかのプロジェクトが動いているということを手く発信してもらおうというようなひもつけをして、これをメディアに持っていくと取り上げていただきやすくなるし、この地域でこういうことをやり続けているんだよということを、継続して発信するというのが非常に重要なこと。今スタートの段階で皆さん一生懸命やってくれるのですけれども、大体こういうものは途中で中だるみするので、継続したことがどうやってできるかというのを考えておいたほうがいいかなというのは思います。そういう意味で、この広報チームが一番忙しくなるのかなというように思いますが、このチームがやっていることによって、いろいろな人を巻き込んでいけると。僕らの事例で言うと、例えば、北海道の栗山町とか、実際にお手伝いしているのですが、出身者の芸人のバービーさんに来てもらったりしてやっています。そこがご自身の出身地なので、まちづくりに関わることが故郷に錦を咲かすというようなイメージで、栗山町を応援したいみたいな思いで協力してくれるというようなことだったり。このように芸人さんとか、タレントさんを使うというのも1つでしょうし、企業をそれによって巻き込むということもそうですし、今4本立っているプロジェクトが1つの志になるので、これをちゃんと広報として発信するという仕組みを、せっかくなのでつくったほうがいいかなと思います。

【増田会長】

それに関連すると、先ほどプラットフォームにチームとして登録できるのかという話をしたのは、そ

ういう意味でして、プラットフォームの中にこんなプロジェクトとか、こんなチームがありますとなれば、プラットフォームを通じてチーム間の連携が成立していくとか、そういうような形になるので、よりプラットフォームの機能が見やすくなると思うのですね。プラットフォームに入っていることによって、隣のチームと連携できるようになりましたとか、一緒にイベントをする機会になりましたとか、そういうことが目に見えてくると、プラットフォームの意義みたいなことが非常に明確になってくるので、じゃあプラットフォームに登録しておきましょうかみたいになってくるだろうと思うんですね。その辺もご協力いただければと思いますけれども。ありがとうございます。

後は、特産品を使って商品開発をしようというプロジェクトについて、委員の三木さんが参加されていますので、何か補足はございますかね。

【三木委員】

先ほどの事務局の説明で紹介がありましたが、実は、最初はレトルトの桃のカレーを作ろうとしてたのです。理由は、桃とカレーの組み合わせがちょっと変わった感じがすることと、桃が正味2カ月ぐらいしか使用できないので、それではなかなか1年中PRは難しいということで、何とかレトルトで何かできないかというところから、そんな発想が出たのです。食品メーカーに試作品を作ってもらったのですが、全然桃の味がしないのです。これは難しいと言われ、今暗礁に乗り上げています。思い切ってブルーチェにしておもうかという話があるのですが、それでは余りインパクトがないし、せつかなので何か結果を出したいという目的もできているので、今はレシピ作りという方向に転換して、今期は進めているところです。来期でまたチャンスがあれば考えさせてもらいたいと思っています。

【増田会長】

そういうレシピとか商品開発するようなラボというか、シェアキッチンというのはあるのですか。

【三木委員】

特にありません。

【増田会長】

そうですね。今の話、ラボ的なスペースがあって、そこで商品開発をしていくという形も大事だと思います。つまり、ソフトだけではなくて、ソフトが伸びていくと、それを支えるためのハード整備みたいなものが見えてくると面白いと思うのですけどね。

【三木委員】

まずは、桃農家さんとのつながりを密にしないとと思っています。農家さんが希望されていないことを僕らがやっても仕方がないので。最初に、桃農家さんのニーズというのを聞くことからスタートしたいなど。

【増田会長】

なるほど。分かりました。

【三木委員】

商品開発の厨房などであれば、うちのカフェを提供することが可能ですので、先にやりたいのは多くの桃農家とコミュニケーションをとりたいということかなと思います。

【増田会長】

そうですね。ぜひ六次産業化といいますか、篠岡のお土産物ができると、里帰りするときに、そういうふうになるといいと思いますね。

【三木委員】

ハイウェイオアシスのところに並べたいというのが目標です。

【増田会長】

そうですね。ありがとうございます。非常に積極的な取組をいただいてありがとうございます。古池委員どうぞ。

【古池委員】

今の話に関連して、ちょっと気になったのですが、桃農家さんとのコミュニケーションの取り方についてです。先ほど事務局の説明にもあったのですが、忙しいときに来てくれみたいのは断られて当然なのですが、例えば、信頼関係を築いていくときに、かえって邪魔になるかもしれませんが、収穫のお手伝いとか、要するに現場で何かをやるみたいなのをしながら、上手くコミュニケーションを取って信頼関係ができていくと、このプロジェクトはすごく広がっていくのではないかと。つまり、川上に登ってみるみたいなことです。生産現場に行ってみるとか、いろいろとコミュニケーションの取り方を上手くやれば、相当面白いプロジェクトになってくると思います。どういう風がいいのか、かえって邪魔になるとか、いろいろあるでしょうけれども、どうなのでしょうね。

【増田会長】

そのあたりは、先ほど言ったように、行政の信頼性みたいなものがあるので、行政が中間媒体として間に入ることで、非常に取っ付きやすくなると思うのです。やはり日本の行政は、まだまだ信頼性というのがありますので、個別で行くと敷居が高くなりますが、少しそこに行政が具体的に動いてもらうと、割と敷居を下げるができるということだと思います。その辺も、ぜひとも行政にご協力をいただきたいと思うのです。いったん動き出したら、どんどん自由な活動ができるよう、チームの自由度を高めていったらいいと思うのですが、入口の部分については、その辺の仕組みというのは、かなり意味があると思います。

和田委員どうぞ。

【和田委員】

桃の取組は素晴らしいなと思っておりまして、レトルトカレーも全然良いと思うのですが、僕の友人の経営者が小ロットの缶詰をやっているんですね。デリシャス缶詰といって、高級な缶詰を作っているのですが、結構ばか売れしているんです。ですので、缶詰というのも1つだと思います。大量消費、大量生産しなくても少量でも作ってくれるところが結構あるので、桃の缶詰は普通に桃を入れるだけではなくて、そのレシピを作ったものを、桃の何か、フルーツなのかフルーチェなのか分から

ないですけども、この地元の物で作った缶詰を1,000円で売るというのは結構あり得たりします。そういう考え方でいけば、大手の食品メーカーさんだと、なかなか難しいかもしれないですが、少量だったらできるかなというのを試してみるというのを1つ思ったのと、ラボをつくるのであれば、カフェを使うのも全然良いと思うのですけれども、せっかくなので空き家を使っていたらいいなと思っています。世の中を見ていると、地域のために使うのだったら貸してもいいよという人が、結構増えているなという感じはします。空き家を使わない所有者にとっては、使ってもらうことで管理もしてくれるメリットもあり、ラボ的なもので使ってもらえるなら貸してもいいよというような人も出てくるので、そんなふうを探していただきつつ、やっていただければうれしいなと思いました。

【増田会長】

空き家を利用してシェアキッチンみたいな形で使う、ラボの機能とシェアキッチンみたいな機能を持たせた使い方ができるといいですね。どうしてもラボだけだと空いている期間が長くなり、使わない時間が結構長くあるのですけれども、例えば子ども食堂として利用してシェアキッチン的に365日使えるような仕組みというのができるといいと思いますので、ぜひともそういう視点で取り組んでみるというのも1つだと思います。ありがとうございます。

中川委員、どうぞ。

【中川委員】

今、桃のお話がいっぱい出ていますが、実はブドウ屋さんもたくさんいらっしゃいます。そういった面で、ブドウも今のお話の中に参加させていただけたらと思います。それと併せて、やはり農家さんとの接触に当たって、例えば、いきなり三木さんが、これこれこういうことで訪問したところで、非常に難しい部分もあると思います。それを仲介するのが私どもの役割ではなかろうかと思います。もしよろしければ、そういう場を設けたいということであれば、中に入って、農家さんとの橋渡しをさせていただきたいなというように考えております。

【増田会長】

すばらしいです。中川さんのやつは、真ん中の特産品を広くPRしようという、このグループ活動ですかね、それではないですか。また別にですか。

【中川委員】

また別に今の新しいメニューの、新たに現在の農家さんがどのようなことを望んでいるのかという掌握も含めてです。もしそういう場が必要であれば、お申出いただければ働きかけたいなと思います。

【増田会長】

そうですね。三木委員、どうぞ。

【三木委員】

本当に渡りに船といいますか、本当にそれを望んでいましたので、ぜひ来期継続することになるのであればよろしくお願いします。

【増田会長】

プラットフォームというのはそういうことなんですね。いろいろな情報交換をすると、お互いにちょっと手助けできますよみたいなことが出てくると前に進むということで、非常にいいことだと思いますので、ぜひとも連携いただければ。ありがとうございます。

【事務局】

先ほど不具合で見られなかった動画が、今できるようになりましたので、先に動画を見てから話していただければと思います。

【増田会長】

はい。

(動画視聴)

【増田会長】

ありがとうございます。

このイメージアップ大作戦については、村上委員が参加されているとのことですが、何か補足というか、ご意見いただけますかね。いかがでしょう。

【村上委員】

イメージアップ大作戦に参加しており、ワイナリーの撮影に参加してきました。第2弾の四季の森の撮影は天気の都合でいったん延期になり、今月末にやる予定になっています。

先ほどいろいろな意見がありましたけれども、やはり、継続してやるということが大事だと思っています。このプロジェクトも来年の2月頃に一応けじめというように聞いていますが、どういう団体に引き継いでいくのかなという疑問があります。それと、やはり若い方の参加がないとこのような新しいことはできないので、若い方の入ってくるような仕組みをつくっていただければと思います。今3名の大学生がいるのですけれども、この子たちも話を聞くと、学年が上がって余り参加できないようなことを言っています。今のところ若いこの子たちが積極的に意見を出してくれるというような状況ではないので、こういう若い方が積極的に意見を出してやってもらえるような仕組みがほしいなと思っています。

個人的には、地域協議会のほうへ引き継げればいいなと思っているのですけれども、地域協議会も人材不足でなかなかこういうことを引き継いでできる状況にないので、先の雲行きが少し怪しいなと思っています。感想でありますけれども。

【増田会長】

いかがでしょう。今年度の事業でこれが終わりという話なのか、継続はないので、私は単純に考えれば、極端なことを言うと、参考資料1にあるような登録プロジェクトにしてしまうか、あるいは20万円のチャレンジプロジェクトにしてしまうか、そんな位置づけをすることによって、チームとして活動が継続できると。そんな仕組みにつなげていただくとありがたいと思うのですけれども。行政の年度計画において、今年度終わったら、これで完成しましたという話ではなくて、それをどうやって継続するかという、1つの仕組みが参考資料の中のチャレンジプロジェクトであったり、登録プロジェクトに今のメンバーがチャレンジしますかみたいな話だと、自立したような形で継続していけるというような

ことだと思えるのですけれども、そうではなくて、やはり芽生えてきたので、スタートアップの3年間ぐらいは行政が手伝いますという話なのか、その辺いかがでしょう。今議論をしている4つ、5つのプロジェクトですが、いかがでしょうか。

【事務局】

補助金ですとか支援ということにつきましては、今年度につきましては補助金なり、認定支援をしておりますので、今後継続できるような形で市としては支援していきたいと考えております。

【増田会長】

その辺、チームの方々もそうだし、行政の側もそうで、先ほども言いましたように、やはり自走できる仕組みへ、最初からそれを意識してやらないと、最初のスタートはとても大事なんですね。そこを目標に活動するというような形を意識づけしていただいて、やはり自走するということへつなげていただければありがたいと思うのですけれども。

ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。大分意見をいただきましたけれども。小柳委員どうぞ。

【小柳委員】

本日配布の追加資料「活動実施グループの特徴」の1ページの2番目に書いてありますが、「あおぞら市場 in 緑道・農産物地域内循環プロジェクト-みんなが笑顔に-」を現在計画させていただいております。これを計画したのがワークショップ等々で地元をどうするだとか、あるいはブドウをどうするか、農家とのつながりをどうするかというようなお話がありましたので、私たちとしては、農家の方々ともっと交流をできる場を創出するということを主題にして考えたのが、この緑道での物品販売と、農産物の販売ということで、農協さんにご協力をいただいてやろうではないかと。当時はいろいろ考えて農産物の無人販売を考えたのですけれども、これはちょっとハードルが高いなということで、これにしました。東部まちづくり推進室のご協力やアドバイスをいただきまして、11月27日にあおぞら市場をやります。この企画は、農家さんの軽トラで来ていただいて販売するのと、もう一つは桃花台の住民の中で家庭菜園をやっている方がいらっしゃいますので、この2つに呼びかけて今進めております。農家さんのほうからは、今のところ、軽トラ7台という連絡をいただいております。これは当日1台ぐらい減るかも分からないよということなのです。場所はちょうど桃陵中学校と桃ヶ丘小学校の正門の前が、緑道として非常に広い場所がありますので、そこを行政にお願いしてお借りすることにしました。

もう一つは、雨の日はどうするかというような話が出ます。幸いにして、雨の日は小学校の体育館をお借りするというので、これも行政のお力だと思っておりますが、快諾をいただきまして、雨の日は体育館をお借りして販売するというにしました。当初は農協さんにお話をしたときに、面白いなという話をいただきまして、今日はご欠席ですが、農協の専務理事の稲垣委員にお話しして、いろいろお世話いただいておりますが、なかなか人が集まらないのではないかと。人集めのためにも、バザーぐらいやったらどうかということだったのですが、僕たちはバザーをやると、またいろいろ当初目的が狂ってしまうので、バザーではなくて、知恵を絞って先着100名までオープン記念プレゼントということで、何かを少し渡しませようということでお話ししたら、これも面白いなということで、進めています。

実は、もう一つ仕掛けたいものがあるのですけれども、これは相手方があるので公表できませんが、地元企業の方にご協力いただけるならば、もう少しやってみたいなというように思います。

11月27日の市場開催後ですが、ご出店いただいた方々との反省会ということで、隣に会館がありますので、そこでささやかな昼食をしながら、今日はどうだったということを反省しながら、運営側と農家さんの交流も深め、次に結びつくような話をさせるように、農協さんにもお願いしたいと思っています。ですから、これは突発的に一発勝負でというのではなくて、やはり最初に失敗してしまうと、なかなかその後が難しくなると思っていますので、一回目を何とかやれやれといった思いでも成功させて、今後も農協さんの協力をいただかなければいけないし、家庭菜園の方にも協力をいただかないといけないものですから、その辺を含めて、第2弾、第3弾を進めていけるような体制づくりをしていきたいと思って、中心的に取り組んでいます。

【増田会長】

ありがとうございます。基本的には軽トラ市などは、来て売れ残ったとか、来たけど赤字になったという続かないですね。いかに人を集めるかという話が大事で、やはり地域の方々がそれを応援するために買い物に行くというような裏返しを、ぜひしてほしいというのと、もう一つは、私のやっているところは集客の意味を兼ねて、いろいろなイベントと合体して、児童の読み聞かせ会みたいなことをやってくれる主婦と、子育て等のグループが1ついて、軽トラ市の横で絵本の読み聞かせ会をしているとか、あるいはクラフト教室をしてくれているとか、そういうことと合体してやると集客効果が出てきて、農家の人も出てきたら、ある一定、自分の収益につながりましたというようなことをしないと、イベントだから赤字でいいわというような形でやったら絶対続きませんので、そこら辺は、ぜひともそういうことをやっていただければ。

【小柳委員】

要するに、せっかくオープンしたが、人が来なかったではいけませんので、地区と小学校区だけで約2,000軒ですけど、そこへは広報11月1日号と15日号の配布に合わせ、PRチラシを回覧で回すように区長さん方をお願いしてあります。区長会とか防災訓練の帰りのときにも、その他の方にもお願いをしてありますので、参加してくださる方に関しては、私は今のところ余り心配していません。

【増田会長】

なるほど。あともう一つ大事なのは、多品種が販売されないといけないので、農協側をお願いするのは、もしも7台来るのだったら、極力、違う野菜を手に入れて、多品種が販売できるようにするという話と、もしも各農家ごとに、それぞれが1台で来たら結局ペイしないということになるようなら、集配を工夫して、1台のトラックに3軒ぐらいの農家分の多品種を積んで、1人だけが来られるということになると、労働負荷が下がるんですね。そういう産地側での工夫も今日の価格をお話ししてやってもらったらいと思うんですね。1回目のイベントのときは7台来るかもしれないけど、ひょっとしたらその状態を見て3台に集約して、そのかわり1台に2件分積んでくるような仕組みをやると。実際に、金剛ニュータウンというところでは、そういうことをやって継続しています。しかも先ほど言いましたように、余り大量生産してないような、あるいは普通の販売ルートに乗せられないような形の悪いのとかでも売れるみたいな、そういう仕組みとうまく連携すればいいと思うんですね。

【小柳委員】

地域ではグリーンセンターで販売していますが、この市場でも、スーパーで販売する規格品を定額で

売るのではなくて、規格外、いわゆる「訳あり商品」というものを持ち込んで販売していただくという話をしております。

【増田会長】

そうですね。そうすると、今の脱炭素じゃないですけど、売れ残りをなくすとか、食べ残しをなくすような形で、全ての農産物が有効に皆さんに利用いただけるという、その辺なども非常に時代的背景の中で後押しになると思いますので、ぜひやってほしいなと思います。

【小柳委員】

もう一つは、農家の方々でも専業農家の方が非常に少ないです。したがって、高齢者の方々が、ちょっと出そうかという程度でお作りいただいているんですね。そういうことですから、どちらかというところ、これを売らなきゃ困るということではなくて、どちらかというところ、私ども桃花台の域内にいる人よりも裕福な方々ですね、そういう方が出店してくれているので、余りがつがつした形ではやりたくないなど。ただし、せっかく出してくださったことに、私どもが心から感謝を申し上げることにより、この取組は面白い、楽しいから、次もやろうかというような話にさせていただけるように僕たちが努力しなければいけない。そういうことを今考えております。

【増田会長】

軽トラ市に関しては、最近の良いトラックができていますし、あるいはテントでやるなら、テントのデザイン性も非常に大事で、ビニール製品ばかりを使った場に野菜を並べるのではなく、木箱で並べるとか、いろいろな工夫をすることで、若い主婦の方々も行ってみようかとか、非常に喜びを感じながら行けるような工夫も大事なんですね。ですから、どんどん改善しながらブラッシュアップしていけるプロジェクトだと思います。これはある意味、定期的に開催されて、買い物難民の解消などにもつながっていけば、さらに発展していくのかなと思うのです。

和田委員、どうぞ。

【和田委員】

この農作物のプロジェクトもすごく素晴らしいと思うのですが、できればこどもマルシェも一緒にやったらいいのではないかと考えて、併設されるというか。最初は難しいと思うのですが、こどもマルシェのプロジェクトは、僕は一番いいなと思っているのです。やはり地元の子供を巻き込んで、子供が集客するという部分もあり得るかなと。おじいちゃん、おばあちゃん来てねということで、僕も何回か子供たちと一緒に、そういった販売をしたことがあるのですが、やっぱり売れるんです。子供がいると「買って」と言うので、そういうこともありますし、子供は大人の真似がしたいので、販売員とか、いわゆるキッズニアみたいな形になるので、こどもマルシェのところについては、キッズニア的にいろいろな職業体験ができるよというようにしてあげると、子供たちが行きたいとなって、お母さん方だとかは行かざるを得なくなってくる。そこに例えば、あおぞら市があって、そこもこどもマルシェもあるというようになってくると、両方集客できるという。集客はお困りにならないとのお話でしたので、多分大丈夫だと思うのですが、それらにより活性化することと、後はそこに来ている人たちが見回することで、お互いを手伝い出すという現象が起きてくると思うんです。お母さんぐらいただと、子供にいい物を食べさせたいと。体にいい物を食べさせたいというのは間違いなこ

となので、そういったところで売っているものが美味しいんだよという教育もできます。

サービスエリアもできるんですよ。道の駅みたいなものが将来的にできるんですかね、将来的に高速道路ができるんですよ。そこで売れるぐらいのイメージをしてもらいつつ、両プロジェクト一緒に走らせてもらおうと、ここも桃花台ですので、子供たちはそういうことが自然に遊びながらできるみたいなことになれば、もっといいかなというように思いました。

【増田会長】

それに加えての話をすると、あおぞら市場への出店については、来てもらうだけではなくて、何回かに1回は生産現場で開催することにして、反対にマイクロバスで我々が行くと。そこで各農家の方が庭先マルシェをされていて、そこを何件か回って買い物をするような、そういう行き来ですね。「ニュータウンに来てください」だけではなくて、こっち側から農村現場に出かけていくというような取組もやってもらおうと、より消費者と生産者の顔が近くなるので、そんなものも考えてもらおうとありがたいと思っているのです。だから私のやっているマルシェなんかは、必ず3回に1回ぐらいは、反対にマイクロバスで庭先マルシェの生産現場に行くようにというような形にしていますが、地域の中での循環型経済みたいなものと同時に人間のつながりを深めていくみたいなやり方も1つだと思うのです。

小柳委員、どうぞ。

【小柳委員】

おっしゃることはよく分かります。あおぞら市の第1回は11月27日にやりますが、今予定している形にこだわっているつもりはないです。そこから生まれていくものを次にどうやってつなげていくかということが、今会長さんがおっしゃるように大事なことだということに思っています。今回の取組を通じて、農家さんとも交流ができるし、農家さんの思いや私どもの思いも伝わると思うし、僕たちの思いを伝えることもできる。そういうことの中で、まさに子育てのように、一から育てていく思いで交流をさらに進めていくうちに、農家さんのいろいろなご希望を含めて、会長さんのお話にあったように「私のところの軒先まで来てくれれば」という話があれば、もちろんそういうものにどう応えていくかということを検討していかなければいけない。そういうことのサイクルは回していきたいと思えます。

【増田会長】

ありがとうございます。今日は5つのプロジェクトがあるので、かなり盛り上がって、これを基本的には、継続できる仕組みへどうつなげていくかということが非常に重要で、いろいろな有効な意見交換ができたかと思えます。

今年度上半期の状況については、これでよろしいでしょうか。事務局何か、もう少し聞いておきたいことはございますか。よろしいですか。

それでは、次第の3に進めたいと思えます。

次第の3は、令和4年度下半期の取組についてということで、説明いただいた後、また意見交換をしたいと思えますのでよろしくお願いします。

【事務局】

それでは、議事(1)、令和4年度下半期の取組について説明をさせていただきます。資料6をご覧ください。

資料6は、「東部まちづくりプラットフォームの展開」といたしまして、今年度下半期に予定しております、トライアル活動実施報告会・意見交流会の開催について、その内容の案を記載したものとなっております。

先ほども報告しましたが、現在、幾つかのトライアル活動を実施、あるいは実施に向けての準備が進行しているところです。

これらの活動は、おおむね12月を目途に、一旦区切りがつく見込みですので、その後の、年明け2月頃に活動の成果を発表する機会を設けようと考えております。

概要としましては、予定日が令和5年2月12日、日曜日、小牧勤労センターにおきまして、トライアル活動の成果確認、トライアル活動への外部評価、トライアル活動者の輪の拡大などを目的といたしまして開催するものです。

対象者は、トライアル活動参加者、東部まちづくりプラットフォーム登録者、そのほか東部地域のまちづくりに関心がある方を想定しております。

報告会を実施するのに当たり、トライアル参加者で発表し合うだけでは、せっかくの成果が内輪での共有にとどまってしまうことから、プラットフォームに登録をいただいた方々にもご参加いただき、オープンチャットのようなオンライン上のつながりだけでなく、リアルな対面でのつながりづくりの場としても活用いただくこと、また、プラットフォームにもワークショップにも参加していない、東部地域に関心のある方にも、まちづくりへの参加のきっかけとしていただけるような機会にしたいと思い、意見交流会もセットで開催しようと考えております。

次に、資料の下段ですが、当日の進め方です。

まず、第1部といたしまして、トライアル活動実施報告会を行います。ここでは、実際に活動を行った各グループから、活動の様子や成果、また、こうすればよかったというような振り返りや、今後に向けてのアイデア等を紹介いただければと考えております。

これらの発表に対し、客観的な目線での講評があると、参加者のモチベーションにもつながると思います。幸い、当審議会の増田会長のご都合も大丈夫とお聞きしておりますので、当日ご参加をいただきまして、感想等いただきたいと考えております。

その下にまいりまして、第2部では、意見交流会です。単に、「意見交流をしましょう」と言っても、なかなか話を切り出しにくいのではないかと思いますので、実際のトライアル活動というネタをきっかけに意見交流が広がり、そこから新たなつながりが生まれ、活動が促進されることを期待しております。

続いて、資料の2ページ上段にあります「意見交流会での仕掛け」です。

「ファンレター制度」と銘打っていますが、意見交流会で、人と人がつながりやすく、意見交流がしやすくなる仕組みとして考えたものです。

内容は、トライアル活動に参加していない方も、興味のあるトライアル活動のメンバー宛てに質問やメッセージを送れるというもので、そのファンレターをきっかけに、意見交流やまちづくりの担い手のマッチングを進めるものです。

特徴として考えたことは、単に感想や気持ちを書き連ねるだけでなく、ご自身の得意なことやできることといったことも書き添えていただき、ファンレターをもらう側も、送る側のことを知ることで、まちづくりを進める上でのマッチングができるようにしています。

資料の下段にまいりまして、意見交流会への取り入れ方です。

今、お話ししました「ファンレター」のイメージを右側に載せていますが、まず、トライアル活動の報告会を聞いていただき、興味のある活動を探していただきます。

次に、ファンレターを書いていただきますが、これは、1つの活動だけにしか出せないというのではなく、興味の対象が複数あれば、それぞれに書いていただけます。それを、グループごとに設置したメッセージボックスに入れていただき、その後、一番興味のあったグループのところへ行って、ファンレターをきっかけに、意見交流をしていただくという流れで進めたいと考えております。

以上が、事務局で検討しているトライアル活動実施報告会及び意見交流会の開催内容となっております。

このこと、もしくは、プラットフォームの展開などにつきまして、委員の皆様の忌憚ないご意見を頂戴できればと思っております。

説明については、以上です。よろしくお願いいたします。

【増田会長】

ありがとうございました。後半の議事ということで下半期の取組、特に2月12日に予定しています発表会について、何かご意見なりアイデアなりいただけますでしょうか。いかがでしょうか。

落合委員、どうぞ。

【落合委員】

先ほど、特産品ですとか農産物という話が多くありましたが、今、農家というのは働き手の後継者が不足していて、手間がかけられないわけです。どうしても除草剤を多用することになります。そうすると土地も悪くなる。そういった中で、大規模に農地をやっている人は特にそうですけれども、本当の昔の味というか、いい味というのは、やはり手間暇かけて草ひいてというのが安全だし、食の安全とかいろいろな面から見ると、特産物、農産物という取り上げ方だけではなく、考え方の中に、除草剤は減農薬を整備するとか、草枯らしを余り使わないようにするということが活動の中で取り入れていくと、胸を張って、いい物です、味もいいですよというようにいけるのではないかなと思います。その辺も反省だとか出てきたときに話題にすれば、活動する人も食の安全だとか、除草剤の害とかを意識することにもなってくると思います。ちょっと余分ですけどね。

【増田会長】

それとは直接関係ないですけども、せっかくこれをやるので、こどもマルシェと緑道マルシェを午前中にやって、来た人が野菜の買い物ができると。それからセミナー、発表会があるみたいなことはご協力いただけないですか。ここのグループで言うと、こどもマルシェのグループと、先ほど小柳委員のおっしゃっていただいたあおぞら市場、これを同時開催されたらどうですか。そうしたら、より人が集客できるのだらうと思うのです。買い物だけして、発表会を聞かずに帰る人も出てくるのだらうと思えますけれども、そういうことも1つだと思うのです。農協さんなり、地元農家ですべて出してくれますよという人がうまく見つければ、軽トラ市なり、販売を午前中1時間なり、2時間ほどやって、それからセミナーを迎えるみたいな形にできたらいいのではないかなと思うのですけれども。その辺、今すぐイエス、ノーではないと思うのですけれども、そういう検討もされると、実行動と室内でのディスカッションが一体化すると思うのですけれども、それは難しそうですか。小柳委員、あるいは、こどもマルシェをやっている方で、いかがでしょうか。

【小柳委員】

今回の11月27日は無理かもしれないです。

【増田会長】

いや、この2月12日です。これから11月27日に向けていろいろな打合せをされるでしょうから、2月12日も午後からこのイベントをするので、午前中というか、昼にかけて1時間なり1時間半なり、軽トラ市をやってくれませんかみたいなことをお声がけいただくようなことは可能でしょうか。

【小柳委員】

大丈夫です。ある程度一歩踏み出したなという形にしないと。

【増田会長】

そうですね。

【小柳委員】

それと例えば、同じ方向でやるなら、協力できる部分もまたあると思いますので、そこら辺をどうするかということを発展的に考えていければ。僕もはっきり言うと年が年だから、もう着地点に来てしまうからね、老衰の。そんなこともありますので、できれば若い人たちが一緒になってやれることが、これをきっかけにできれば、僕はすばらしいなと思います。

【増田会長】

そうですね。事務局は何か不都合はございますか。もしも協力が得られるということになったら、マルシェとあおぞら市場と一体化するということは可能ですか。

【事務局】

会場の都合もありますので、調整しながら、検討させていただければと思います。

【増田会長】

そうですね。ほかはいかがでしょう。

もう1点、会議が始まる前に大塚先生とお話をしていたのですが、東部振興構想がまだまだ地域に根ざしておらず、知らない人が多いので、プロジェクトの紹介の前に、東部振興構想をみんなに知ってもらおうようなレクチャーというのか、発表みたいなものの必要性はないですかね。大塚先生、どうですか、前も一度やっていただいていますけれども。

【大塚委員】

それについては、実は桃花台を考える会の講演会を来年1月に開催をすることになっていて、そこでそういう話をさせていただくというようなことになっていると伺っているので、そちらでやっていただくというので多分いいのではないかと思います。

【増田会長】

そうであれば、私はまだまだ事あるごとに東部振興構想を宣伝していかなければいけないと思うので、

概要版を作りましたよね、それをパネルとして展示いただくとか、あるいは午前中、もしもマルシェをするのだったら、構想の説明ブースみたいなものを置いて、そこで概要版を配布するとか、市民の方が「東部振興構想って何ですか」というのを市の方に聞ける場をつくるようなことも併設すると、意味があるのだと思うのですけれども。最低限は概要版をパネルに掲げておいて、会場に来た人が東部振興構想って何なのだろうかとこの壁面などで見えるように展示をしてもらいたいなと思いますけれども。大塚委員、どうぞ。

【大塚委員】

それはもう大賛成で、事あるごとにそういうのを発信していただくというのが必要だと思いますし、ぜひやっていただければと思います。集まっていた人、その会自体が振興構想を始まりとして、今やっているんだよというところを共有していただくということも必要ではないかと思います。

【増田会長】

東部地域に小学校はいくつありましたか。

【事務局】

5小学校です。

【増田会長】

そういうところに出前講座的に東部振興構想を説明に行くような機会というのはないですかね。それも大事だと思うのです。せっかく東部振興構想をつくれたので、小学校で出前講座に行きましようかみたいなものを教育委員会に声をかけてみると。先ほど言った、待っているのではなくて積極的に営業しないとという話で言うと、この頃よくやってもらっているのですが、都市マスタープランができたり、総合計画ができると、出前講座に行きますよみたいなことを関連する市ではよくやってもらうのです。この5校に構想の冊子は配布しているでしょうか、5小学校に。概要版と構想の冊子。

【事務局】

冊子は各学校に送らせていただいております。

【増田会長】

できたら、そんなところに出前講座をやりますよみたいな宣伝をしてもらってもいいなと思うのですけれども。それともう一つは、先ほどから、営業という話をしていますが、2月12日にかけては、待っているのではなくて、工業団地の企業群に商工会議所みたいなところを通じて、2月12日の参加を呼びかけるようなことというのはできますかね。いかがでしょうかね。

【坪井委員】

やれないことはないのですが、なかなか具体的な、例えば先ほどおっしゃった桃だとかブドウという観光資源のものの商品化前の展示というようなことがあれば、商工会議所の会員の方々にもご参加いただけると思います。

【増田会長】

いや、いや。要するにプロジェクトとしては、特産品のPRとか商品開発をしようとか、あるいはワイナリーをドローンで空撮して、都心部でPRしましょうとか、そういう話を少し商工会議所でしていただいて、それに興味がある企業さんに、できたら出席されたらどうですかみたいなお誘いをしてもらおうと。来られなかったら、来られなかったで、別に強制ではないので、そういう呼びかけをぜひともご協力いただけるとありがたいですけどね。

【坪井委員】

それは可能です。

【増田会長】

そうすると、三木さんのところも商品開発を一緒にしましょうかという、加工業者がひよっとしたら手を挙げてくれるかもしれない。そんな機会になればと思うのですけれども。

【坪井委員】

それを逆に期待しております。

【増田会長】

ほかはいかがでしょうか。和田委員、どうぞ。

【和田委員】

ウェブ配信は検討されていますでしょうか。

【増田会長】

事務局、どうぞ。

【事務局】

ウェブ配信は今のところ検討はしていません。

【和田委員】

大層なことはしなくてもいいと思うのですけれども、せっかくプラットフォームでLINEを活用されたりもするので、もっとSNSを活用するという意味でもYouTube配信をしたらどうかと。映像のチームを呼んで30万円をかけるとか、そういうのをしなくても、手弁当で配信はできるので、そういった配信でいいので、やったらいいのではないかと思うのと、後は市役所の広報のチームが各PRとか、新聞などメディアにも声かけをするのではないかと思うのですけれども、それは絶対やっていたほうがいいかなというところです。

後は、人が集まってきていただける。どれだけ来ていただいて、聞いていただけるかというところだと思うので、会長も先ほどおっしゃっていたように、商工会議所もうまく事業者や企業を巻き込んでいくということは非常に重要なと僕も思いますし、青年会議所の方は、若手の方が多いと思いますので、一緒にまちを盛り上げるというようなところで変わってきてほしい。関わりたいという人たちに来てい

ただいて、そういう場になって、実施報告会、発表会のファシリテートを社長さんにさせていただくとか、そういうようにしていくと輪ができて、次の取組につながって行って、これを事業化しようという話になる可能性というのは、結構あり得るなと思うのです。あり得るし、僕もそういうのがあって、事業になっていったというのを目の当たりにしていますので、ぜひそういうように、東部地域のことなのですけども、小牧市の企業家や経営者を巻き込むというような取組にさせていただくためにも、最低ウェブ配信をしたほうがいいかなと思います。

【増田会長】

それと、もう1点は、1枚ポスターをぜひとも作ってほしいと思うのですけれども、それはなぜかというと、プラットフォームの登録メンバーに、このポスターを使って情報発信を個別にしてくださいよと、自分の周りの人たちにそういうお願いをします。今度、9月29日に大蓮公園というところでフェスタをするのですけれども、30グループぐらい市民が参加してくれるのです。我々がやったのは何かといたら、ポスターを1枚デザインしただけで、各グループがそのポスターを使って自分の出店を宣伝してくださいというので、本部から広報するよりも、むしろ出店者の方々にうまくポスターを使ってPRしてもらおう。要するに、プラットフォームに登録された方は、お客さんではなくて、自分たちはプレイヤーだから、ある意味そういう情報発信のお手伝いをしてくださいねという投げかけをすると、お客さんではなくて、プレイヤーの1人なんだという自覚も生まれてくるのです。できたら、そういうことも駆使してもらおうと、お金をかけずに情報発信ができると。だからそういうポスター作りを1つしてもらおうとありがたいと思うんですけどね。

【小柳委員】

もう一ついいですか。僕たちが参加している地域協議会もぶっちゃけて言うと高齢者ばかりですが、活動としてはいろいろやっています。というのは先月の30日に、中学校の外国籍の生徒さんと座談会をやりました。東部まちづくり推進室の林さんもお出席いただいたので、中身は分かっているしやると思いますけれども、今、商工会議所さんが関わり、開発しているハイウェイオアシスというのが来年いっぱい完成をするという目標で、今一生懸命工事を進められているんです。この間、外国籍の子供たちと話をするときも、実は東部地域の中にはこういうものができますよということで、資料を開発会社からいただいて、生徒だけではなくて、我々の仲間にもどのような計画をされているかということで紹介したんですね。やっぱり魅力を感じたか、生徒たちの顔がぱっと変わったのです。それを見て全部回して、細かい説明はできないけど、こういうものが来年度できますよということでやったら、こういうものができるとかということが分かったんですね、外国籍の子供たちにも。去年もやったのですけれども、今年もやりまして、そういう中でこういうものができると。地域に密着してくださいねと。そういうように期待していますよと。あなたたちを育ててくれたお父さん、お母さんにも僕たちは感謝していますよと。これからも仲良くしていきましょうねと、ポルトガルとスペイン語を要約した挨拶文を入れて、ぜひそうしてくださいということを、地域協議会の中でやっています。

ですから、これも東部まちづくりの中で通じるものがあります。外国籍の子供たちがどんどん増えていきます。日本の子供たちはどんどん減っています。そういう中ですので、僕はこういう子供たちが、ここをふるさとにしてもらえたらという思いで、そういうことを毎年続けてやらせていただいているのですけれども、学校ももちろん協力してくれまして、先生方にも渡しました。このような視点は将来的に重要な部分になってくると思います。

【増田会長】

そうですね。ありがとうございます。いかがでしょう。大体下半期にしようとしている2月12日のイベントに対して、いろいろなアイデアなり意見が出て、100%できることと、できないことがあろうと思いますので、その可能性を追求していただくということで。それも含めてですけれども、大分時間が迫ってきましたので、東部振興について何かご意見がありましたら、いかがでしょうか。

坪井委員、どうぞ。

【坪井委員】

先ほど、小柳さんが言われたハイウェイオアシスの開業ですが、訂正させてください。開業は令和6年3月の予定なんですね。ですから、ちょっと小柳さんがおっしゃったよりは少し遅れている状況です。先ほどから特産品の話が出ています。桃だとかブドウ、生ものはもちろんいいですが、そのシーズンしかありませんから、それを加工したものをいろいろ商品開発していただく。単発ではなくて継続して販売をしていく。それが東部地域も含めて、小牧のいろいろな発展につながっていくというようなことですから、プロジェクトからビジネスに展開していただくように期待しております。

以上です。

【増田会長】

ありがとうございます。やはり継続していくということは、ある意味経済的に回るということが非常に重要なので、そのあたりも意識しながら活動してもらおうということも非常に重要かと思います。ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。

1点だけ、些細なことなんですけれども、ファンレターのところ、2ページ目の裏のところですが、「電話番号任意」と書いてありますけれども、電話番号も大事ですが、その下にぜひともメールアドレスを表記していただいたほうがいいのではないかと。電話はなかなか連絡しにくくて、メールアドレスを書いていただいて、情報発信等々を受けていただけると、あるいはこれからの東部まちづくりについて何らかの情報の欲しい人はメールアドレスを登録してくださいというような、メールアドレスだけの感じだと、個人情報の管理も大分楽だと思うんですね、電話よりも。そこはファンレターのイメージのところを足しておいてもらおうといいと思います。

【和田委員】

せっかくLINEのオープンチャットがあるので、LINEのQRコードを書くとか、そこへ登録してもらおうようにしておいたほうがいいかなと思いますけれども。

【増田会長】

はい。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。大体よろしいでしょうか。

和田委員、どうぞ。

【和田委員】

すごく良いプロジェクトが動いているなということを今日実感しました。僕らも51自治体ぐらいお

手伝いしていますけど、なかなかこれだけ動くところはないです。この1年、2年、戦略会議の委員からやらせていただいておりますが、ここまで積極的に進んでいるところは珍しいし、小さいけれども動いていっているのがすごく見えている。実際に、他所を見てると、NPO法人さんが、バラバラでやったりして、まとまりがないのでうまく回っていないんです。だから、ここが主体となって5つのプロジェクトが連動していっているというのは結構ポイントだなと。このモデルがちゃんと成功すれば、東部エリア自体がよくなっていくのも見えますし、ほかの基礎自治体の先進的な事例みたいなことで取り上げてもらえるとか、発信できることも言えるのではないかなというぐらい、ベースとしてはよいものができているのではないかなと。皆さん、ずっとこの審議会の皆さんがおっしゃっているのは、継続させるということがいかに重要かということなので、上半期せつかく動いたので、やり放しでなくて、絶対来年も再来年も継続させるためにどうしたらいいか。そのために民間をいかに巻き込んで、緩やかに渡していくのを、どういうふうに渡していくのかというのは徹底的に考えていただいたほうがよくて、委員の皆さんとも一緒に、個別に小牧市の中で、僕はよそ者なのであれなのですけれども、小牧市の動いていただいている方と密に連携しつつ、時にはNPO法人を立ち上げるとか、役所からの資金だけではなくて、事業採算性というのをしっかり見つつ、企業さんに応援してもらいながら運営するという方法もあると思うんですね。あらゆる方法があるので、あらゆる方法で小牧市の東部エリアというのは、実は最先端のまちになるんだみたいな、そういう次の社会の最先端のまちづくりが小牧市東部地域というところからできたと。その原点はこのプロジェクトだったんだよというようなふうになっていくというイメージをしていただきつつ、全体継続させるためにどうしたらいいか、これを下半期絶対仕組みとして来年度につなげていく、再来年度につなげていくというところを、ぜひ皆さんでやっていったほうがいいのではないかと思います。

【増田会長】

ありがとうございます。行動指針といいますか、どう行動していったらいいかというよう非常に貴重なご意見をいただきましたので、肝に銘じてやっていくと。この審議会もどちらかというと、審議というのは、どちらかというと出来上がってきた題材の認可をしたりという話ではなくて、まちづくりをどう支援していくとか、どうサポートしていくんだというような形で、第三者的な関わりではなくて、一人称として自分事として発言いただき、意見交換ができるとプロジェクトが連携していったりということになって、ここもある意味貴重なプラットフォームなんですね、審議会というのも。そんな形でこの会議も進めていければと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。大塚先生いいですかね、一言ございますか。

【大塚委員】

和田委員と、会長がおっしゃっていただいたとおりでと思います。結構今、いろいろなものが動きつつあり、これを見える化して、その成果を共有するということをしつかりやっていくことが、次の輪を広げていくということにつながっていくのかなというようなこと、ぜひそういうことをやっていただきたいということと、やはりどう続けるかというところで、いろいろなものが動いていき、これをどう地域でマネジメントしていくかというところ。中枢を担う人なのか、グループなのか分かりません。そういうものをつくり上げていくということ、先に見据えて動いていくというのは、和田委員がおっしゃっていただいて、そのとおりでかなと思って伺っておりました。以上です。

【増田会長】

ありがとうございました。

それでは、事務局、何かその他はございますでしょうか。

【事務局】

その他の前に、先ほどプラットフォームの展開ということで、2月12日に開催される報告会と意見交換会の説明をいたしました。本日、様々なご意見、ご提案をいただきましたので、その辺を含めて会場の検討ですとか、改めて、日程も含めて一度検討させていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

それから、その他ですが、1点ご連絡をさせていただきます。

当審議会ですが、現メンバーの任期につきましては、来年の3月22日で満了となっております。したがって、年明け頃から改めて、一般公募委員の募集をするなど、事務を進めていくこととなりますので、ご承知おきをよろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

【増田会長】

皆様方、よろしいでしょうか。貴重なご意見、あるいは意見交換ができたかと思えます。これを機会に、先ほどございましたように、この歩みを止めずに、きっちりと歩いていくということが非常に重要かと思えますので、よろしくお願いいたします。

本日は、自由、活発な意見交換の進行にご協力いただきましてありがとうございました。事務局にお返ししたいと思います。

【事務局】

委員の皆様、本日はお忙しい中、長時間にわたりましてご議論をいただきまして誠にありがとうございます。

なお、本日の会議の会議録につきましては、作成次第、委員の皆さんに送付し、内容の確認をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第7回小牧市東部まちづくり審議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。